みずみどり

2024 年　6 月 1 日　　第 162 号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円　郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
http://mizumidori2.eco.coocan.jp
E-mail：mizumidori@nifty.com
連絡先　坂本　郁子　板橋区中台２－２７－E505

城址のクヌギの木

城址に樹林地から倒れんばかりに幹を曲げたクヌギの木があり、あまりにも曲がっていて、倒れて危険だという声があって、伐採または途中で切る予定でした。が、先日赤塚公園サービスセンターの杉本さんから、「伐採しないで様子を見ることにした」と言われました。よかった、よかった、生きながらえたクヌギをあたたかく見守っていきましょうね。

クヌギは、雑木林を構成する木で、城址の斜面林にもまだたくさん生えています。ところが、ドングリから芽生えたクヌギの子供や若い木は見当たりません。クヌギやコナラは日当たりを好むため、樹林地内で発芽しても育つことができません。城址の斜面林のクヌギやコナラは、精一杯背伸びして太陽の光をあびるか、太陽を求めて明るい方へ曲がって適応しているのでしょう。
日当たりのよいバッタ広場ではドングリは芽生えてクヌギやコナラの若い木が育っています。ク

ヌギは、生育に多くの光を必要とする陽樹です。
城址の腰の曲がったクヌギの木は、普通なら見られない木の先端が観察できます。雄花が咲き、雌花はどこ？、雌花が結実してドングリに変化していく様子、クヌギの葉や花に来る小さな虫たちなど、クヌギと共生している生き物が目の前で見られます。

写真左は盛大に咲くクヌギの花。雄花です（3 月末撮影）。虫に花粉を運んでもらったら、地面に落ちて終わりです。雌花はどこ？探しましたが見つかりませんでした。ドングリになる実は、昨年の雌花から育ったもので、これから大きくなっていくのを観察していきましょう。

写真左はテントウムシよりやや小さいハムシです（ハムシは葉を食べる虫）。右の赤い小さな玉は、虫こぶです。虫こぶは小さな虫（寄生バチなど）が、葉に卵を産みその刺激によって植物の組織が変形したこぶを言います。虫こぶをつくる寄生虫は、植物によっていろいろです。
大分前に城址で撮影したクヌギシギゾウムシの写真がありました。若いドングリの実に卵を産みに来たのでしょう。栗の実やドングリからでてくるウジ虫は、ゾウムシの幼虫です。クヌギの木で暮らす虫たちもいろいろですね。

カエルの産卵・オタマジャクシ・異常気象

ヒキガエルは３月初めごろ一冬が終わりかけて温かい日が続くころ一に池に産卵に来ます。今年の３月は寒い日が続きました。昼間は日差しが強く暖かでも朝晩は冷え込み、カエルたちはいつ産卵に出たらよいかわからず調子が狂ったと思います。見かけたカエルは１匹、でも３月初めに卵塊は１個ありました。
昨年は数匹のカエルが池に来ていたし、卵塊も５個ありました。今年は卵塊１個のみ。
３月末急に暖かくなり、不破さん宅の池や、あちこちでカエルの産卵がありましたが、赤塚トンボ池では新しい産卵はありませんでした。あわただしく桜も見ごろになり、そのまま４月に入って５月並みの気温とか夏日とかの報道・・・気温の変化にとまどうばかりです。
たった１塊の卵とオタマジャクシを食べにくるカルガモ除けのネットを張りました。４月１４日、カルガモが来て、ネットのそばでどうしたら入れるか思案していましたが、もちろん入れません。この時すでに、オタマジャクシは全く見当たりませんでした。食べたのは何者か？考えられるのはヘビ（ヒバカリ）です。ヘビが入る隙間はありましたから。
今年は暖かかったので冬眠していたヘビが早々と出てきたのでしょうか。この日ザリガニもいたそうです。気温の上昇は生き物の生態にも影響があるかもしれませんね。
ヒキガエルの卵塊には１０００個～５０００個の卵があるそうです。オタマジャクシが１㎝位の豆ガエルになって無事上陸したとしても、ほとんどが他の生き物に食べられてしまい、大きなガマガエルになれるのは数匹とか。
だからヒキガエルは様々な環境のちょっとした隙間、幸運が重なったとき大繁殖するのですね。
その幸運はいつ来るのか、人間が助けることができるのか、大きなお世話なのか・・・
カエルが人目につかなくなり、だれにも関心を持たれなくなったら、寂しいですね。

美術館横の赤塚トンボ池の卵は１塊のみでしたが、他の水辺ではどうでしょうか。
沖山の池では、３月９日に確認した卵３塊は、すぐに干上がってしまいました。３月３１日一面に産み付けられ卵は、４月４日には干上がっていたそうです（布施さん）。

不破さん宅（徳丸）では池に産み付けられたカエルの卵は無事に上陸しました。住宅地なのでヘビはいなかったのかもしれません。

５月２６日カルガモ除けのネットを外しました。ネットの下には何もいませんでした。昨年は幸運がいくつも重なって、オタマジャクシは豆ガエルになり、私が見たときは豆ガエルが池の縁に集団でじっとしていました。今年はヘビ（ヒバカリ）が侵入する隙間があったけれど、ネットのは目の大きさは１ｃｍなので、山田さんはヒバカリはこの網目から侵入できると言います。来年はカエルの産卵もないかもしれないし、産卵したとしても何もできないでいるのかなあ。

総会を開きました　まず現場を見てから

２０２４年は新しい会員を迎えてスタートしました。総会には事情で参加できない方も多くて残念でしたが、６名が参加、この日は会報を見た親子４人が来られ、全員でトンボ池のフェンス際の草を刈り、布施さんが枯れ枝でつくった堆肥置き場に投入しました。
これまで落ち葉や刈った草を１か所に集めて積んでいましたが、枝の入れ物があるとちょっとかっこいいですね？

バッタ広場に移動して、まず生き物探し。トノサマバッタに似ているツチイナゴは今年は多かった。夏の間クズの葉を食べ、クズの茂みで越冬していたツチイナゴは、枯れてクズのないバッタ広場を飛んでいます。今は食べなくてもいいのかしらん。もうすぐ産卵して一生を終えます。
新芽が縮れているクヌギの実生木にアブラムシ。そこには、テントウムシの成虫や幼虫がいて、アリもいました（遠山さんのいう三角関係）。エノキの葉にはハムシやテントウムシ、ハムシの幼虫を狙うサシガメ、また葉の裏に小さな虫たちが隠れていました。
虫が大好きな子供がクビキリギスを捕まえ、我々はササを刈りながら見せてもらう。草原にいるナカグロクチバとオオウンモンクチバを見つけてみんなでウォッチング。
虫探しが得意な子供たちがいると、手入れもにぎやかでやっぱり楽しい。

左の写真はバッタ広場でよく見かけるオオウンモンクチバ（４ｃｍ位の大きな蛾）です。右はナカグロクチバ。形が似ていますね。同じ蛾の仲間です（シタバガ亜科）。釣巻さんによるとナカグロクチバは南方系の蛾だが温暖化によって北上し板橋でも見られるようになったそうです。そういわれてみると私がバッタ広場で初めて見たのは５年前。温暖化の影響はいろいろなところに出てきますね。どちらも幼虫の食草はクズやマメ科植物ですが、私は幼虫を見たことがありません。

早めに切り上げて、ファミレスに移動して総会。事務局の瀬田さんが退会され、坂本郁子が世話人となりました。よろしくおねがいします。初めての人や、まだ数か月の人もいて、懇親会で親しく話し合うことが出来ました。トンボ池付近の古い写真を見て盛り上がり、バッタ広場もトンボ池も、貴重な自然の場所として残していきたい、という思いを共有しました。

バッタ広場の手入れって何をするの

植物が一斉に育ち、バッタ広場は若葉色です。ひとり生えの木も大きくなり、新しい会員を迎え、何をするか、やりたいことは人さまざまです。

何を切りたいか、何を駆除したいか、何を残したいかを考えてから

手入れとは何？、１１月に伸びた実生木を切ってもらいましたが、初めて体験した女性にも好評でした。気持ちよい汗をかいて「やったぞ」という達成感があります。むさくるしい藪を切り払いたい、木を切りたい、セイタカアワダチソウやコセンダングサは外来植物だから抜きたい、枯れた草は除去するの、クズも早めに駆除しなければ等々あります。理由はともかく、個人的な好き嫌いがあるようです。

「トンボ池のドクダミを抜かないのですか」と聞かれました。皆さんはどう思われますか。

トンボ池のドクダミ（右）
真っ白い花がきれいです。花が終わると、きれいでなくなりますが、無害です。なぜ抜かなければならないのでしょうか。

とんぼ池では、フェンス際の草を刈ります。通りがかりの人に池の水を見てもらうためです。また飛来したトンボが、水面が見えるよう水面を覆う池周りの草を刈っています。

ニリンソウ保全地区では、生物多様性を保全する目的で、キチジョウソウ、ヤブミョウガ、ヤエムグラなどの野草を除去しているそうです。

バッタ広場は特定の植物を保護する場所ではありません。だから切ったり抜いたりするなら、「手を加えたらどうなったか」を見るのも勉強です。それぞれが「私の定点」を決めるのもいいかもしれません。

では何を残すの・・・これも人によっていろいろです。

私が「残したい植物」は手入れのなかで折々に紹介しましたが、強く保全を求めませんでした。

でも残したい、これからどう成長していくか見守ってみたい植物にテープ等で印をつけて、他の人にも見てもらうのもいいかな、と思います。
私は、ガガイモの株を保護するテープを張りました。印をつけておくと刈らないし、何だろうと思って見てもらえます。城址ではサルトリイバラに保全の印がついています。昔はありふれたサルトリイバラも「ここしかない」からでしょう。

なぜ草地を残すのか　「昔の雑木林や草原を取り戻す」という考えもありますが、私は、都会の大人や子供が自然に出会い、自然を学ぶ場所と考えています。見ていると自然ってえらいなあと思うんです。公園にはきちんと整えられた木や花壇がありますが、生き物はあまり見えて来ない。バッタ広場は生き物たちが暮らすワイルドな場所（ビオトープ）で、私たちがちょっとおじゃまする場所と考えていました。
保育園の子供たちがやってきます。ダンゴムシやテントウムシを見つけて楽しそうです。
ワイルドな場所には危険がひそんでいます。子供たちがけがをしないよう注意しましょう。特に固い笹の切り口は危険です。

バッタ広場で減らしたいのはササ

「バッタ広場で減らしたい植物」はササです。バッタ広場はササが優占しつつあります。
生き物によって食草・食樹はいろいろです。蚕はクワしか食べませんね。なので、いろんな雑草があるほうが生物相は豊かになると思います（セイタカアワダチソウの花だって虫たちに人気）。
ササ以外の植物が生えてきそうな場所を重点的にササを刈ります。ササしか生えない場所のササは、野草が枯れた時期にササの生育範囲を包囲してじわじわと攻めていきましょう。

バッタ広場の枯れ木をどうするか

城址の斜面林に囲まれたバッタ広場には、枯れ枝が落ちて転がっています。それも自然の一部です。
バッタ広場に倒れ込んだ木を伐採し、幹だけ持ち出し処分され、バッタ広場に残された先端部分を放置した木が２本もありました。

布施さん（きれい好きです）が放置された枝を切って集めたらすごい量の枯れ枝のオブジェになりました。どうしたものか、布施さんと遠山さんと相談して、バッタ広場の周囲に柵状に置くことにしました。長い枝を切って短くしり、細い枯れ枝はクズで束ねて粗朶にしました。枝を整理すると嵩が減ります。

さて、死んだ植物などを食べて分解してくれる生物は、どこにいるのでしょうか。

笹刈をしながら地面の枯れ葉などを剥いでみると、地表面で暮らすダンゴムシ、ミミズ、ゴキブリがいます。かれらは落ち葉や生き物の死骸を食べる分解者。自然の中で立派な役割をもって生きています。堆肥置き場にはいっぱいいます。
バッタ広場の切った枝や草をかれらに分解してもらいたい。そのためには枝や草は地面に密着させる、それがビオトープで出たゴミ（本当はゴミではない）の対処方法と思います。

観察・活動記録（2024年4月－5月23日）

トンボ池　ザリガニ捕殺、

バッタ広場　　カナヘビ、オオタカ（バッタ広場裏の樹林地で営巣中）、モンキチョウ交尾、キチョウ、キマダラセセリ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、カメノコテントウ（幼）、ハナアブ、クビキリギス、ツチイナゴ、カマキリ幼、モリチャバネゴキブリ、ハラビロヘリカメムシ、アカサシガメ、シマサシガメ、ヨコヅナサシガメ、コフキゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、**クズクビボソハムシ**（外来種。バッタ広場では初めて一クズがボロボロになるまで食い尽くし、クズを食べる昆虫に影響がないか心配）

バッタ広場で女王アリ？を見た。

大興奮しました。５月１７日、暑い日で前日は雨。ピンボケ写真で悔しいのですが、２ｃｍ程の大きなアリで、下向きに止まり、大きな羽が上向きに出ていて、腰が右に曲がっています。

アリは繁殖期になると羽の生えたメスとオスが巣から飛び立ち、相手を見つける「結婚飛行」をします。結婚飛行の時期はアリの種類によっていろいろですが、クロオオアリは５月の雨上がりの蒸し暑く、風が弱い日。あちこちの巣から示し合せたよう一斉に飛び立つそうです。オスは交尾したら死んでしまい、メス（新女王アリ）は羽を切って地面に巣を掘って、あとの人生はひたすら卵を産み続けます。長生きらしい。

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は　坂本まで　０９０－４６１８－１２９５

異常気象の中での活動、動植物の夏の暮らしの観察や手入れも必要だし、悩ましいところです。各自判断して下さい。
第２日曜日は崖下や日陰の観察を中心に、作業は３０分で切り上げ。
第４土曜日の手入れの範囲を決めて３０分位にします。

１　赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第２日曜日）どなたでも

生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業をやります（カマは用意します）。
６月９日（日）１０：００～１１：００
７月１４日（日）１０：００～１１：００
集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前
参加費：無料（保険には加入していません）
もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋、あれば図鑑、虫眼鏡など、

２　赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（原則は第４土曜日）

６月２２日（土）１０：００～１１：００　バッタ広場笹刈等
集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前　　汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

３　日暮台公園と樹林地の観察（第１日曜日）　　１０時日暮台公園前集合

４　バッタ広場みんなで生き物調べ（小学生は保護者同伴）

日時　７月２７日（土）１０時～１１時
集合場所：いたばし美術館前
持ち物：長袖、長ズボン、帽子、飲み物、虫よけ薬、あれば昆虫網、図鑑、虫眼鏡、（サンダルは×）、生き物は観察したら元に戻します。
申込先：いたばし水と緑の会　坂本 mizumidori@nifty.com

●ビオトープボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。
　ホームページ　http://mizumidori2.eco.coocan.jp
いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。
●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費 2000 円：振込先は表紙に記載）。